

学校経営推進費 評価報告書（2年め）

1. 事業計画の概要

| | |
|--------|---|
| 学校名 | 大阪府立長野高等学校 |
| 取り組む課題 | キャリア教育の充実（生徒の希望する進路の実現） |
| 評価指標 | <ul style="list-style-type: none"> ・国内外大学の総合型選抜（AO入試・多目的評価入試等）合格者数 ・「課題研究などの探究活動によって、進路決定や進路希望実現への意欲が高まった」生徒の割合 ・「地域連携や国際交流を通して、違いを認め、相手を尊重する態度が身についた」生徒の割合 ・地域や海外との交流および会議開催回数 |
| 計画名 | ながのガリレオ計画 ～ひらめきをキラメキに～ |

2. 事業目標及び本年度の取組み

| | |
|--------------|---|
| 学校経営計画の中期的目標 | <p>「ながのガリレオ計画 ～ひらめきをキラメキに～」（令和5年度学校経営推進費）</p> <p>※ 課題研究などの成果を活かし、大学の総合型選抜の合格者を15名以上（R6年度）。</p> <p>※ 「課題研究などの探究活動によって、進路決定や進路希望実現への意欲が高まった」生徒の割合80%以上（R6年度）。</p> <p>※ 「地域連携や国際交流を通して、違いを認め、相手を尊重する態度が身についた」生徒の割合80%以上（R6年度）。</p> <p>※ 地域や海外との交流および会議を10回以上開催（R6年度）。</p> |
| 事業目標 | <p>地域連携（令和4年に河内長野市と連携協定を締結）と国際関係学科設置校としての強みを活かした情報発信・中継基地としてガリレオルームを設置し、複数の事業者との連携や幅広い世代との交流を通じて、国内外で活躍するグローカル人材^{※1}の育成を推進する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 知の複合化による深い学びと進路希望の実現 複数の事業者と同時に連携する新たな試みによって、自らの強みを活かしたキャリアプランを立て、進路希望の実現を図る 2. 交流対象の拡大による柔軟性と高い対応力の育成 対象を特定の世代から幅広い世代に広げることで、相手や状況に応じて臨機応変に対応できる力を身につける 3. 上記1・2を実施するためのスキームの共有と成果の発信 新たな校内組織を立ち上げてスキームを構築し、成果は地域だけでなく、LETS^{※2}・ASPnet^{※3}を活用して情報発信する <p>※1 世界的（グローバル）な観点で物事を考え、地域（ローカル）社会に貢献する人材 ※2 国際関係学科を設置している大阪府立高等学校の愛称 ※3 ユネスコスクールのネットワーク</p> |
| 整備した設備・物品 | プロジェクター4台、会議用360度ウェブカメラ、会議録画及びシステム管理用パソコン、プレゼンポスター等印刷用大判プリンター、映像データ収集用カメラ、ミーティング用テーブル、移動式机、椅子、ジョイントマット、ホワイトボード張替（黒板） |
| 取組みの主担・実施者 | <p>企画運営：首席、総合探究・HR委員会（総合探究学年主担・各学年主任・各学年LHR係）、 進路指導部、【令和5年度新規】ICT活用・学力向上企画プロジェクトチーム（委員長・副委員長・進路部長・教務部長）</p> <p>実施者：全教員</p> |

| | |
|--------------|---|
| 本年度の取組内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・韓国姉妹校の訪問を予定していたが、飛行機事故の影響により中止となったため、オンライン交流に変更して実施。 ・学校説明会では設備を活用し、3面ディスプレイを利用した環境を見学してもらい、好評を得た。 ・総合的な探究の時間で業者との打ち合わせに活用予定であったが、今年度は実施せず。 |
| 成果の検証方法と評価指標 | <ul style="list-style-type: none"> ① 課題研究などの成果を活かし、大学の総合型選抜の合格者を 10 名以上。 ② 「課題研究などの探究活動によって、進路決定や進路希望実現への意欲が高まった」生徒の割合 70%以上 ③ 「地域連携や国際交流を通して、違いを認め、相手を尊重する態度が身についた」生徒の割合 70%以上 ④ 地域や海外との交流および会議を 6 回以上開催。 |
| 自己評価 | <ul style="list-style-type: none"> ①課題研究などの成果を活かし、大学の総合型選抜の合格者 18 名 (○) ②アンケート未実施（※整備予定設備・物品の調達が遅れ、正確な数値をとることが不可能であるため中止となった。） ③外部講師による講演会や国際交流を通して、違いを認め、相手を尊重する態度や海外についての興味がとても高まった生徒の割合 100% (◎) ④地域や海外との交流および会議を 10 回開催した (○) |
| 次年度に向けて | <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインを活用した交流や探究活動の機会の創出するとともに、引き続き、韓国の姉妹校とのオンライン交流の実施する。 ・探究活動で、複数の連携先とオンライン交流ができるよう今後調整したい。 |